

陛下即位を宣言



発行所 秋田魁新報社
〒010-8601
秋田市山王臨海町1番1号
©秋田魁新報社 2019年

号外

購読申し込み

0120-13-1231

電子版

www.sakigake.jp

モバイル

m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」朝刊、「秋田魁新報」電子版「さきがけMOBILE」をご覧ください。

正殿の儀、「国民に寄り添う」



皇居・宮殿の正殿「松の間」で行われた、天皇陛下が即位を宣言する「即位礼正殿の儀」=22日午後1時14分

天皇陛下が内外に即位を宣言する「即位礼正殿の儀」が22日午後、国事行為として皇居・宮殿で執り行われた。陛下は玉座「高御座」に立ち、「国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法のつとめを果たすことを誓います」と述べられた。

新憲法下で催された平成時の正殿の儀は、戦前の様式を倣ったことから、憲法が定める国民主権や政教分離の原則に反するとの強い批判が出たが、政府は今回も前回の様式を踏襲した。台風19号の被害拡大を受け、パレード「祝賀御列の儀」は11月10日に延期された。

正殿の儀は、「松の間」で行われ、古式装束「黄櫛染袍」を着た陛下が、天孫降臨神話に由来する高御座に上り、即位を宣言。皇位のしるしとされる「三種の神器」のうち剣と璽(勾玉)が、国の印の「国璽」と天皇の印の「御璽」とともに高御座に置かれた。皇后さまは十二単姿で隣の「御帳台」に立った。

安倍晋三首相が祝辞の「寿詞」を述べ、参列者らと万歳三唱。政府は194カ国や各界の代表など2千人以上を招待し、外国の元首や王族、政府高官のほか、皇族や三権の長、知事らが参列した。